

## コックピットでの1時間<sup>じかん</sup>

その日、私はドイツのフランクフルトから東京<sup>とうきょう</sup>行きの飛行機<sup>ひこうき</sup>に乗っていました。飛行機<sup>ひこうき</sup>の中で私は、子供のころ祖母<sup>そぼ</sup>が地球儀<sup>ちきゅうぎ</sup>を見せながら話<sup>はな</sup>してくれたことを思い出していました。その時<sup>とき</sup>、祖父母<sup>そふぼ</sup>はヨーロッパ<sup>りょうこう</sup>旅行<sup>りょこう</sup>から日本<sup>にほん</sup>に帰<sup>かえ</sup>ってきたばかりでした。日本<sup>にほん</sup>からヨーロッパ<sup>りょうこう</sup>へ行く<sup>い</sup>ときは、ふつう、ロシア<sup>うえ</sup>の上<sup>とお</sup>を通ります。でも当時<sup>とうじ</sup>は冷戦<sup>れいせん</sup>中で、ロシア<sup>うえ</sup>の上<sup>とお</sup>を飛行機<sup>ひこうき</sup>が飛ぶ<sup>と</sup>ことはできませんでした。だから、日本<sup>にほん</sup>からヨーロッパ<sup>りょうこう</sup>へ直接<sup>ちよくせつ</sup>行く<sup>い</sup>ことはできませんでした。もちろん祖父母<sup>そふぼ</sup>も東京<sup>とうきょう</sup>からアラスカのアンカレッジ<sup>い</sup>まで行って、アンカレッジ<sup>い</sup>で飛行機<sup>ひこうき</sup>の乗り換<sup>か</sup>えて、北極圏<sup>ほっきょくけん</sup>を通<sup>とお</sup>ってヨーロッパ<sup>りょうこう</sup>まで行ったそうです。

私がドイツ<sup>わたし</sup>から東京<sup>とうきょう</sup>まで飛んだ<sup>と</sup>1990年代後半<sup>ねんだいこうはん</sup>、冷戦<sup>れいせん</sup>は終わっていたので、ロシア<sup>うえ</sup>の上<sup>あんしん</sup>を安心して飛ぶ<sup>と</sup>ことができました。でも、ロシア<sup>ひろ</sup>は広いので、「どの辺<sup>へん</sup>を飛ぶ<sup>と</sup>んだらう？」と私<sup>わたし</sup>は思<sup>おも</sup>って、シート<sup>はい</sup>のポケット<sup>こくうがいは</sup>に入<sup>い</sup>っている航空会社<sup>こうくうがいは</sup>の雑誌<sup>ざっし</sup>を見<sup>み</sup>ました。その雑誌<sup>ざっし</sup>にはフライト<sup>か</sup>のルート<sup>か</sup>が書<sup>か</sup>いてありましたが、ルート<sup>か</sup>がたくさんあ<sup>あ</sup>って、どれだかわかりませ<sup>せ</sup>ん。そこでフライトアテンダント<sup>き</sup>に聞<sup>き</sup>いてみま<sup>ま</sup>した。ところが、フライトアテンダント<sup>と</sup>もどのルート<sup>と</sup>を飛<sup>と</sup>んでいるのかわ<sup>わ</sup>かりませ<sup>せ</sup>んでした。そのうち、私<sup>わたし</sup>は寝<sup>ね</sup>てしま<sup>ま</sup>いました。

1時間<sup>じかん</sup>ぐら<sup>た</sup>い経<sup>た</sup>ったでしょうか。私<sup>わたし</sup>が寝<sup>ね</sup>ていると、誰<sup>だれ</sup>か<sup>か</sup>が肩<sup>かた</sup>をたたきま<sup>ま</sup>す。目<sup>め</sup>をあ<sup>あ</sup>けると、さっき<sup>き</sup>のフライトアテンダント<sup>き</sup>でした。ルート<sup>き</sup>を機長<sup>きちょう</sup>に聞<sup>き</sup>いて

くれたと言いって、雑ざつし誌しをひろ広おしげてルおしートを教おしえてくれました。そして、次つぎの瞬しゆんかん間かん、  
こんなこといを言いったのです。「このよきよううなこみとに興も味もをお持もちのお客きやくさま様にぜひ  
お会あいしたいと機きちょう長もうが申もうしております。よろしかあつたらコあックピあットにいらし  
てくだすさいとのこすとですすが・・・」こすんな素す敵てきな招しょう待たいを断ことわる理り由ゆうはあありませあん。

私わたしは「ぜいひ！」とい言いって、早さつそく速そくコつックピいットへつ連いれて行いってもらいましもらました。

コあックピあットには機きちょう長ふたりと二ふく人きちょうの副まへ機あたま長うえがいましいた。前まへにも頭あたまの上うえにもスいイ  
ツきチきやパおネル機おも器おぼがたおくさおんあおつて「かおっおこおいおい！」とお思おったのおを覚おえておいましおます。

窓まどからそらと地ち平へい線せんしか見みえませあん。そいろいろ、色いろ々いろなこおとを教おえておくれました。

例たとえおば、機きちょう長ふくと副まへ機あたま長うえは同おじおのおを食たべおないこおと（同おじおのおを食たべて、みたんたな  
が具ぐ合あいわるこままなまらまつたら困こまるから）、飛ひ行こう機きで揺ゆれつばないちのは翼つばさのちかかくちのシしーしトとだ  
とおいおうこおと、積せき乱らん雲うんはああぶあないから避さけて通とおることおとを教おえておくれました。地  
上じょうにかんせいかん官かんとかいのわ会かい話わも聞きくこおとがおできおましおた。もかちしろしん家か族ぞくや趣しゆ味みのこおと、  
ニげュいーいスいや芸げいい界かいのはなし話わなどはなしふわつわうわのわ話わもわして、私わたしはコなックピじットじの中なかで1じ時じ  
間かんぐすらすい過あごあしたあのです。

こほんれは本ほん当とうに貴き重ちゆうな経けい験けんでさいしきんんひはひ最近さい近きんは飛ひ  
行こう機きのセせいキュきリきティていがどきんきどきんき厳げんしきくきなきつきて  
いおるので、こきうきいきつたき機き会かいはおもおうあおるとは思おも  
えおませおん。もきし、そあのあ機きちょう長あにあまた会あうこあとが  
でぜきたぜら、是ぜ非ひおれれいを言いいたおもいとおも思おもつておもいまおもしおもます。



(1153 字)

(2023.1 Written by Mami TANAKA)



この作品はクリエイティブ・コモンズ 表示 - 非営利 - 継承 4.0 国際 ライセンスの下に提供されています。この作品を利用する場合は、「たどくのひろば」を出典として示してください。

例) 出典: 「たどくのひろば」 (<https://tadoku.info>)

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License. When you use this work, please indicate the source as in the example above.